

## 『グローバル・ガバナンス』創刊に寄せて

グローバル・ガバナンス学会前会長 山本武彦

グローバル・ガバナンス学会が発足して、早くも2年半の歳月が流れ去った。この間に春・秋、年2回の研究大会が開催され、多くの会員から大変貴重なご報告をいただいた。厚く感謝申し上げたい。発足して以来、僅か2年半の間に学会活動にとって不可欠ないくつかの要素のうち、学会誌の発行は学会に所属する会員にとって重要な研究成果を発表するための場を提供する機会であり、同時に学会員相互の批判と議論の重要な場を提供する機会でもある。その機会が学会発足後、2年半も提供されなかったことにお叱りをいただくかも知れない。

しかし、学会誌の発行にはそれなりの時間と熟慮を要することも、また避けることのできない事柄である。発足後未だ間もない段階で発行を急ぐことは、ややもすると、学会誌の質に対する批判を招きかねない。このような点を考慮しながら、編集担当理事には知恵を絞っていただき、ようやく今回の創刊号発行に漕ぎ着けた次第である。会員はもとより、グローバル・ガバナンス問題一般に広く関心を抱いておられる関係者の方々からのご意見・ご批判を賜れば、今後の学会誌の発展にとって裨益するところ誠に大きなものがあるものと確信する。

本学会誌は、他の多くの社会科学系の学会が発行する学会誌と内容的に時には競合することもあろうかと推測する。この点は、ある意味で自然なことであり、グローバル・ガバナンスの概念が政治学や経済学、社会学、文化人類学、歴史学等々の社会諸科学と深い関係性を持つが故に、不可避の現象と言える。しかも、時には自然科学や人文科学領域の問題関心との間の相互関連性を強めるために、グローバル・ガバナンス研究は、必然的にインター・ディシプリナリーな性格を帯びざるを得ない。

従って、今後の本学会誌の編集に当たっても、グローバル・ガバナンス概念と不可分の関係性をもつ諸科学分野との融合関係を常に視野に入れながら注意深く編集作業を進めていかねばならない。そのためにも会員の皆様方の不断のご助言が欠かせない。どうか本学会誌の今後の一層の発展のために、皆様方の忌憚なきご意見を編集委員会宛にお寄せ下さいますようお願い申し上げます。と同時に、今後の編集に当たり、皆様からのご研究成果の掲載希望が陸続と寄せられることを切望する次第である。今後とも格段のご支援を賜りますよう、心からお願いいたします。

(2014年12月)

## 目次

『グローバル・ガバナンス』創刊に寄せて .....	i
	山本 武彦
グローバル・ガバナンスの鳥瞰図—多層化するガバナンスの構造— .....	1
	山本 武彦
国際規範と多国間交渉—GATT・WTO ラウンド事例の比較分析— .....	19
	大矢根 聡
気候資金ガバナンスに見るグローバル・タックスと地球環境ガバナンスの交 差—グリーン気候基金の現状とゆくえを中心に— .....	45
	上村 雄彦
贈与の共同体としての EU .....	71
	山本 直
東南アジアにおける「人間の安全保障」—APEC と ASEAN を中心に— ..	95
	長尾名穂子
《書評》	
玉井雅隆著『CSCE 少数民族高等弁務官と平和創造』 .....	116
	臼井実穂子
ENGLISH SUMMARY .....	122